

平成 29 年 第 1 回日本細菌学会関東支部総会評議員会議事録

(日時：平成 29 年 6 月 20 日 (金) 15:00～、会場：東京大学医科学研究所)

出席：奥野ルミ (支部長)、秋庭正人、祝弘樹、祖母井庸之、落合邦康、甲斐雅規、鈴木香、林俊治、
三室仁美 (各、評議員)、久保田寛頭 (事務局)

欠席：清水健、柴山恵吾、関水久、知花博治、富田治芳 (各、評議員)

報告連絡事項

1. 学術集会委員会からの連絡

鈴木委員長から第 100 回支部総会 (本年) の開催に向けた進捗状況の報告があり、主催者の一人である祖母井委員から、6 月現在のプログラム案が配布された。また、第 101 回支部総会 (平成 30 年) について、大会長である供田先生 (北里大) から会期を 8 月下旬にするか、10 月にするかの選択について相談があったとのこと。第 101 回を行う上での開催費の額について、審議事項となった。

2. 活性化委員会からの連絡

祝委員長から平成 29 年のインターラボセミナーについて、平川秀忠先生 (群馬大)、林秀謙先生 (前橋工科大) の共催で実施する計画であるとの報告。また、阪口義彦先生 (北里大) と内山淳平先生 (麻布大) の共催で平成 30 年のインターラボセミナー開催の提案があったとのこと。また、第 100 回支部総会において、「若手研究者シンポジウム」を調整中の旨、報告があった。

3. 支部長からの報告

奥野支部長から、細菌学会総会会期中 (3 月) の支部長会において、本部法人化について話し合いがあったことについて報告があり、本部から支部への送金が停止することが再確認されたとのこと。また、緊迫した財政状況について、根本的な原因である会員数の減少に歯止めをかけるためにどうすればよいかについて話し合いがなされたとのことであった。総会后、理事長への質問で、細菌学会本部の法人化自体は決定事項ではないが、送金が中止することは確実であることが確認されたとのこと。

4. 選挙管理委員の選出について

次期評議委員選挙に向け、三室委員を含めた 5 名の選挙管理委員 (三室、桑江 (北里大)、馬場 (順天堂大)、松本 (帝京大)、平川 (群馬大)、※敬称略) を選出し、支部長から委嘱の依頼をすることが決定した。三室委員から、選出された選挙管理委員の一人である馬場先生 (順天堂大) は、前回の選挙も行った経験があり、そのときに採用したウェブ投票システムを今回も実施することで費用の削減を行う予定であるとの報告。また、同システムで投票結果を集計するためには 87 ドルほどの費用が発生するとのこと。8 月には選挙人の名簿を入手し、9 月中頃には選挙システムの構築を行う予定。

審議事項

1. 第 101 回支部総会 (平成 30 年) の開催時期、開催費について

8 月あるいは 10 月開催という供田先生の提案に対し、10 月であれば感染症・化学療法学会を

はじめとする他の学会と会期が重複しないように注意する必要がある一方、8月開催の場合は学生の夏休みにもなう参加者の減少、お盆中の印刷業者などの休業などが考えられ、参加登録などがかなり前倒しになることが懸念されるため、評議委員会としては10月の方が望ましいとの結論を得た。また、開催費であるが、第100回支部総会や選挙に必要な費用を考慮した上で、70万円とすることを決定した。

2. 第102回支部総会大会長の選出について

鈴木学術集会委員長から、第102回支部総会（平成31年）の大会長を選出する時期であると発案があったものの、第102回は開催するか否か自体が未定であるため、これを踏まえた上で議論を行った。その結果、第101回までは学術集会委員会から指名を行うという形をとってきたものの、第102回については大会長を公募するという新しい形をとることとした。公募の際は、開催費として70万円を提示し、期日を第100回支部総会までを公募の期日とする予定。

3. アンケート調査の内容について

今後の関東支部の運営方法に関するアンケートの内容について、概ね異議は見られなかったが、学生会員に関する設問（特に学生会費）を加えることが提案された。アンケートは7月中に支部会員に向けて出す予定である。

4. 評議員選挙について

評議員選挙については、web選挙によって実施する予定である。会則内の選挙細則を変更することで、web選挙を行う必要があると提案された。評議委員会で承認されたため、選挙細則を変更し、ホームページに掲載することとした。